

中国語教育における「華語」の受容

——中台の語彙差異を中心に考える——

李

青

はじめに

中華人民共和国（以下では中国または大陸という）は改革開放政策⁽¹⁾が実施されてから、若者の間では、香港、台湾、シンガポールといったいわゆる華人文化圏からの輸入中国語が流行し、新語になり、30年たった今日では普通の中国語の標準語に定着している。中国語についての解釈は全世界に住んでいる華人の国と地域によっては、言い方などが違い、中国では「漢語、中文」と言う。他民族国家及び方言が複雑なため、北京語を基準とする言葉を共通語と制定し、「普通話」とも言う。

しかし、中国以外の国と地域では、大陸とはやや違った中国語が話されている。それは「華語」と呼ばれている。例えば、台湾、香港、シンガポールなどのような地域と国があげられる。舌を巻く巻舌音がないのが最大の特徴である。その他、大陸では漢字の画数を簡略し、字体を「簡体字」⁽²⁾と称している。「華語」社会では旧字体のまま「繁体字」を使用している。言い回し

(1) 1970年代末から始まった経済システム全般の改革、対外開放と共に鄧小平時代の経済発展戦略の基本方針を構成し、中国経済の活性化、市場化、国際化を催すうえで大いに貢献した。歴史的にはこの改革・開放政策の登場によって、中国は毛沢東時代の社会主義的計画経済の枠組みを突破し、市場経済への転換を実現したと位置づけられる。対外開放とは、閉鎖体制をやめ、人・物・金の移動を自由化すること。鄧小平は文化大革命によって停滞し、国際的にも孤立した中国経済をたて直す手段として国内の経済改革と対外開放をスタートさせた（天児慧など編『現代中国事典』岩波書店・1999年、237、675-676頁）。

(2) 中国文字改革研究会（後の国家語言文字工作委員会）が草案を作成し、1956年1月28日に國務院が公布した略字リスト。一般に異体字の関係にある漢字の、筆画の少ない方を“簡体字”、多い方を“繁体字”と呼ぶ。中国政府は漢字の学習を容易にするために、漢字字体の簡略化を目指した（同『現代中国事典』、157頁）。

や発音の違いなども見られる。

大陸の中国語は教育の普及やメディアの発達に伴って、全国的に標準語を推進してきた。40数年前には、上海などの大都市で「同志諸君！標準語を話そう！」という張り紙を目にした。公式の場では「標準語」を話そうという政府の呼びかけは、中国の経済発展とともに当たり前になり、今では孔子学院が世界各国で「標準語」教育を推進している。ところが、グローバル社会のなかで、中国は華人社会と融合することによって、経済発展を促進しようとして人的交流を深めているため、「標準語」が絶対的という神話は崩れつつある。近い将来は「標準語」と「華語」、簡体字と繁体字が共存共生し合うことになるのだろうか。

台湾の中国語には、閩南方言⁽⁴⁾と客家方言⁽⁵⁾が多く入り交じっている。20世紀初頭に大陸が「国語」や「北京官話」運動をしていた頃、台湾は日本の植民地の支配下に置かれ、日本語教育を台湾全島に普及させつつあり、標準とした中国語はあまり存在しなかった。1945年に日本が敗戦し、民国政府は台湾島を接管した。翌年に「台湾省国語推行委員会」⁽⁶⁾が主導し、大陸に遅れながら国語教育を推進するようになった。しかし、1949年以後、国民党と共産党の内戦の結果、兩岸は分断され、今日に至っている。以来、政治的な敵対関係にある故、40年間に渡り、台湾と大陸は交流がなかった。中国語もそれぞれの社会変化と共に独自の言語体系が形成され、今日の相違が見られるようになった。

(3) 2004年、中国政府はイギリス、フランス、ドイツ、スペイン諸国の民族言葉を外国に輸出する経験を手本とし、中国語を伝授し、中国文化を広めること、非営利的なことを目的として、海外に「孔子学院」を設立することを模索し始めた。以来、欧米、日本をはじめ、2016年までの統計によると、世界140カ国に512カ所「孔子学院」が置かれているという（孔子学院官網より筆者が整理。http://www.hanban.edu.cn/）。

(4) 中国の方言の一つである。泉州、漳州、廈門など福建省南部で話されている言葉をさす。東南アジアでは福建語とも呼ばれ、台湾、浙江省南部、広東省東部及び西部、海南省などで話される、類似性の高い言葉の総称として用いられる。

(5) 中国の方言の一つである。話者は、主に広東省東部、福建省西部、江西省南部の山間部に分布するが、四川省、湖南省、広西チワン族自治区、海南省、浙江省南部などの各省区や海外の華僑・華人にも多くの話者がいる。台湾では、台湾の北西部に位置する桃園市南部、新竹県と苗栗県の大半、新竹市と台中市の一部、および台湾南部に位置する屏東県と高雄市のうち六堆と呼ばれる地域、花蓮県の一部で話されている。

(6) 1945年台湾省行政長官陳儀が行政長官公署參議の魏建功が有識者を集め、創設した。北京発音を基礎とした国語、いわゆる「北京官話」を推進することを目的とした。

本稿では、中国と台湾の語彙差異を中心に様々な事例を通じて、中国語教育における受容の有り様を考えてみる。

一、中国語について一様な言い方（表現の仕方）と定義

漢語・中文・普通話・中国話・國語・華語

中国語について様々な解釈が見られる。まず、『現代漢語詞典 第7版』（商務印書館2016年版）に基づき、内容を確認する。

* 汉语（漢語）

汉族的语言，是我国的主要语言。现代汉语的标准语是普通话（513頁）。

漢民族の言語であり、我が国の主要な言語である。現代漢語の標準語は普通話である。（和訳は筆者による。以下同様。）

* 中文

①中国的语言文字，特指汉族的语言文字。②中国语言文字，特指汉语言文学。

①中国の言語文字であり、漢民族の言語文字を特別に指す。②中国言語文学、特に漢言語文學を指す（1697頁）。

* 普通話（普通話）

我国国家通用语言，现代汉民族的共同语，以北京语音为标准音，以北方话为基础方言，以典范的现代白话文著作作为语法规范。

我が国の通用言語であり、現代漢民族の共通語である。北京の発音を標準とし、北方の言語を基礎方言とし、模範的な現代白話著作を文法の規範とする（1018頁）。

* 中国话（中国話）

中国人的语言，特指汉语。

中国人の言語であり、漢語を特別に指す（1695頁）。

上記の解釈から汉语（漢語）は中国话（中国話）とは言い回しが違うもの

の、意味として同じく理解すれば良いと考える。

* 国語（国語）

①指本国人民共同使用的语言。在我国是汉语普通话的旧称。

本国の国民が共通に使用する言語を指す。我が国では、漢語普通话の旧称である（499頁）。

②旧时指中小学的语文课。

旧時（民国時代〔1910年代～40年代〕）を指す。筆者注）小中高校の国語授業を指す（499頁）。

台湾では②の用法を使用している。例えば、「国語課」、「国文課」（国語の授業）のように、台湾では中国語を国語、中文、華語という。

* 华语（華語）

指汉语。

「漢語」を指す（560頁）。

上記の華語の解釈から、汉语（漢語）と中国话（中国話）と同じく理解できることが分かる。大陸の中国語では「華語」をほとんど使わない。

「華語」は主に大陸以外の国と地域で使われている中国語を指す。

例：大陸：○你会说普通话（汉语、中国话、中文）吗？ △你会说华语吗？

台湾：○你會說中文（華語）嗎？ △你會說普通話（漢語、中國話）嗎？

注：○はよく使われ。△はあまり使われない。

上記のように中国語の定義を『現代漢語詞典 第7版』に基づき、見てきた。しかし、台湾は大陸と違い、中国語を「華語」というのが一般的である。大陸では、「華語」は「漢語」と同じ解釈であり、「華語」という名称を減多に用いない。一般的に中国大陸以外で使われる。

以下は「華語」の定義について解釈し再考したい。

台湾で権威がある辞典によると「華語」について「中國的語言。（中国の言語である）」と釋義している。（教育部《重編國語辭典 修訂本》電子版中華民國104年11月臺灣學術網路五版試用版（<http://dict.revised.moe.edu.tw/>

藤井久美子は「華語」について次のように解釈している。「華語は13億人の話す「普通話」を標準語とする以外に、中国語を公用語としたり、標準語の一つと指定したりする国と地域の香港とマカオ（中華人民共和国特別行政区）台湾、シンガポール、マレーシア及び東南アジアの華僑・華人の間では、「華人」（中国人）によって話されている標準中国語のことである。」⁷⁾

華語は大陸の普通話とまったく同じではない。台湾の地下鉄では、中国語国語（標準語）・台湾語（閩南語）・客家語という三言語でアナウンスしている。包容力のある、全世界の華人の言葉（声調の異なる発音、方言の使用）を視野に入れ、共用できる言葉である。

台湾をはじめとする地域や国々で話されている「華語」には以下のような特色が見られる。

①発音は北京語を標準としつつ、地方の発音を取り入れている。②文法と語彙は方言を（主に福建語、広東語、客家語）ある程度許容している。③狭義では標準中国語であるが、広義では、方言の使用も許容し、中国語全体を総称としている。

*台湾国語

現代台湾国語は北京語（普通話）を基礎に、台湾語（閩南語）、外来語（日本語、英語など）の要素を取り入れたものである。漢字は正体文字（繁体字）とする。大陸では1950年代に制定された「簡体字」を規範文字としている。

*大陸と台湾の漢字発音表記の相違

大陸では拼音（ピンイン）表記、ローマ字表記を使っている。それは1957年11月1日国務院第60回会議にて『漢語拼音法案』が決定され、1958年2月11日第一次全国人民代表大会第五回会議にて可決された。23の声母、24の韻

(7) 藤井久美子『中国語圏において「華語」が果たす言語政策的役割』（多言語状況の比較研究 第7回研究会発表要旨 2016年）

母、合計57が使われている。

「こんにちは」を例として、次の例はローマ字表記が拼音（ピンイン）表記という。

例： Nǐ hǎo 你好。

台湾では民国時代（1912年—1949年）に制定されていた注音文字（注音符号）を受け継いでいる。1912年中華民国教育部で制定され、1918年正式頒布された。台湾で1949年から今日まで使っている。21の声母、16の韻母、合計37が使われている。

同じく「こんにちは」を例として、次の例が注音表記という。

例：ㄋㄧˇ ㄏㄠˇ 你好。

二、現代における大陸の中国語と台湾の中国語の違い及び原因

1、中台語彙差異の比較

I 発音からみる語彙の差異

大陸普通話と比較して、台湾国語には以下の特徴が見られる。

- ① 巻き舌音がない。zhǐ chí shǐ の発音が zǐ cǐ sǐ のようになる。

例：吃饭（吃飯）chī fàn → cǐ fàn

筆者は華語教育現場を視察し、授業を体験してみると、中国語の先生はしっかりした巻き舌音を駆使し、外国人学生に教えていた。しかしながら、一般の台湾人の話す中国語からは巻き舌音が消えている。

- ② 儿化音はない。例：花儿（花兒）huār → 花 huā

- ③ n と ng an ang en eng 区別しない。

声明 shēng míng → shēn míng 帮忙（幫忙）bāng máng → bān mán

- ④ fo と he 区別しない。花生 huā shēng → fā shēn

- ⑤ bo po mo fo は eng と一緒に使うと、ong になる。

崩溃（崩潰）bēng kuì → bōng kuì（朋，梦〔夢〕，风〔風〕，翁などがある。）

- ⑥ qu と qi 区別しない。去不去？ qù bu qù? → qì bù qì?

- ⑦ 軽音はほとんどない。

先生 xiān sheng → xiān shēn

东西（東西）dōng xī 大陸では方向を指すとき使う。

東西（東西） dōng xī 大陸ではものを指すとき使う。

台湾では上記の区別はせず、いずれも dōng xī と発音する。

II 字体からみる語彙の差異

① 同字体・同意味・発音が違う。

簡体字・繁体字	大陸発音	台湾発音	日本語の意味	例文
垃圾 垃圾	lā jī	lè sé	ごみ	欄外
和 和	hé	hán	と	
企业 企業	qī yè	qī yè	企業	
侮辱 侮辱	wū rǔ	wū rǔ	侮辱	
法国 法國	Fā guó	Fà guó	フランス	

例文：北京の言葉に「和・hán」の発音はまだ残っている。
你说的哪儿和哪儿啊！（あなたが言っていることはだめじゃない！）中の「和」は「hé」と発音せず、「hán」と発音する。

② 字体が異なるが、意味は同じである。

大陸簡体字	大陸発音	台湾繁体字	台湾発音	日本語の意味
地铁	dì tiě	捷運	jié yùn	地下鉄※台湾では地下鉄+電車 ブログ USB 知らない
博客	bō kè	部落格	bù luò gé	
U盘	yōu pán	隨身碟	suí shēn dié	
不知道	bù zhī dào	不曉得	bù xiǎo dé	

不知道—南中国では“不晓得”を使用する地域もある。

③意味が同じだが、字体は一部異なる。

大陸簡体字	大陸発音	台湾繁体字	台湾発音	日本語の意味
砍价	kǎn jià	殺價	shā jià	値切る 父親の女姉妹の夫 ウエイトレス・従業員
姑父	gū fu	姑丈	gū zhàng	
服务员	fú wù yuán	服務生	fú wù shēng	

④ 意味が同じだが、字体は逆である。

大陸簡体字	大陸発音	台湾繁体字	台湾発音	日本語の意味
素质	sù zhì	質素	zhì sù	民度・素質
熊猫	xióng māo	貓熊	māo xióng	パンダ
地道	dì dao	道地	dào dì	正真正銘・本物
<p>例文：</p> <p>①小李说一口地道的北京话。(李さんは生粋の北京語を話す。台湾では「道地」という。)</p> <p>②小李，來台灣我請您吃道地的台灣菜。(大陸では「地道」という。)</p> <p>(李さん、台湾に来られましたら本物の台湾料理をご馳走します。)</p>				

⑤ 字体が同じだが、意味は異なる

大陸簡体字	大陸発音	台湾繁体字	台湾発音	日本語の意味
公车	gōng chē	公車	大陸と同じ。	大陸：公用車。 台湾：バス。
爱人	āi rén	愛人	大陸と同じ。	大陸：配偶者。 台湾：恋人。
男生	nán shēng	男生	大陸と同じ。	大陸：男子学生。 台湾：男性の総称。
女生	nǚ shēng	女生	大陸と同じ。	大陸：女子学生。 台湾：女性の総称。
地主	dì zhǔ	地主	大陸と同じ。	大陸：労働者を搾取する 土地の所有者。 台湾：土地の所有者。

⑥ 外来語の使い方・外来語の翻訳が違う

大陸簡体字	大陸発音	台湾繁体字	台湾発音	日本語の意味
舞会	wǔ huì	派對	pài duì	パーティー
博客	bó kè	部落格	bù luò gē	ブログ
奶酪	nǎi lǎo	起司	qī sī	チーズ
克朗普	kè lǎng pǔ	川普	Chuān pǔ	アメリカの現役大統領。 (Donald John Trump)
新西兰	Xīn xī lán	紐西蘭	Niǔ xī lan	ニュージーランド

⑦ 日本語の名残や現代日本語からの語彙

大陸簡体字	大陸発音	台湾繁体字	台湾発音	日本語の意味
盒饭	hē fàn	便當	biàn dāng	弁当
大妈・阿姨	dà mā · ā yī	歐巴桑	ōu bā sāng	おばさん
乒乓球	píng pāng qiú	桌球	zhuō qiú	卓球
		阿給	ā gěi	あげ

⑧ 閩南語や地方の風習から生まれた言葉

大陸簡体字	大陸発音	台湾繁体字	台湾発音	日本語の意味
见面礼 点心匣子 (↑北京や北方地区)	jiàn miàn lǐ diǎn xīn xiǎ zǐ	伴手禮	bàn shǒu lǐ	手土産
办喜宴 (閩南地区)	bàn xǐ yàn	辦桌	bàn zhuō	披露宴

⑨ 古典語彙の使用

课业 (課業) kè yè

功课, 学业, 学习。(勉強、学業、宿題、など。)

現代中国語例：

大陸：要好好用功，不可荒废学业。

(よく勉強しなければいけない。学業をおろそかにしてはだめだ。)

台湾：要好好用功，不可荒废课业。

⑩ 改革開放後に「香港・台湾」新語の受容

香港や台湾から現代普通話へ	解 釈
簡体字：单车 (dān chē) 繁体字：單車 (dān chē) · 腳踏車 (jiǎo tà chē)	大陸では「 ^{zìxíngchē} 自行车」と書く。自転車。 現在大陸では「自行车」と「单车」を併用している。「单车」を使用する頻度が多いようである。
走秀 (zǒu xiù) 走秀	台湾では英語の show を「秀」と訳す。ファッションショーの意。

(簡体字と繁体字は同じ。)	大陸では「服装表演」という言い方があるが、最近「走秀」も使うようになった。
簡体字：买单・埋单 (mǎi dān · mǎi dān)	普通話では「付钱」, 「结帐」という言い方があるが、最近「买单・埋单」は一般的に使われている。
繁体字：買單・埋單	
敲定 (qiāo dìng) 敲定 (簡体字と繁体字は同じ。)	決定する。普通話では「決定」というが、最近では「敲定」も使う。

⑪ 文法や用法の相違

* 過去の経験を表す「过」(guò 過) について

(～したことがある。)

大陸の場合：我吃过北京烤鸭。 動詞 + 过 + 目的語

台湾の場合：我有吃過北京烤鸭。 有 + 動詞 + 过 + 目的語

(Wǒ chī guò Běijīng Kǎoyā. / Wǒ yǒu chī guò Běijīng Kǎoyā.)

私は北京ダックを食べたことがある。)

* 普通話によく使われる副詞「很」(hěn) を台湾では「蠻」(mán) にしている。台湾の影響で大陸では普通話に取り入れている。

大陸の場合：这个人很有意思。Zhègè rén hěn yǒuyìsi. (この人は面白い。)

台湾の場合：這個人蠻有意思。Zhègè rén mǎn yǒuyìsi.

2、中台語彙差異の原因

① 40年に渡っての断絶による隔たりがもっとも大きい。

政治、経済、文化、風習などの違いにより、発展の過程において大きな違いが生じた。

② 経済的な要因

大陸：社会主義体制下に生まれた長年に渡る計画経済

台湾：資本主義体制下の市場経済

③ 政治的な要因

政治的な理由による時代の言葉がある。

大陸：文革（文化大革命）臭老九（知識人に対する蔑称）紅衛兵（紅衛兵）

台湾：匪諜（匪諜、共産党のスパイ）

藍營（一般的国民党と新党を指す）

綠營（一般的に民進党を指す）

④ 風習の違い

大陸：方言を認めつつ、普通話教育を徹底している。標準語が普及している。方言、特に南方の方言を標準語にあまり取り入れない。

台湾：北京語を基本としつつ、閩南語を国語（標準語）に積極的に取り入れている。

⑤ 外来文化の受容の落差

大陸：外来の言葉をなるべく漢語に訳す。

台湾：原語の発音をそのまま使い、漢字の当て字を作る。

blog → 博客 (bó kè 大陸) → 部落格 (bù luò gé 台湾)

cheese → 奶酪 (nǎi lào 大陸) → 起司 (qǐ sī 台湾)

終わりに

上記のように大陸と台湾の語彙の相違を比較してきた。台湾は日清戦争（1894-1895年）以来、50年間の日本統治時代と大陸との兩岸分治などによる歴史的な荒波を経て、中国語が大きく変化してきたことが分かってきた。一方、大陸も共産政権ができてから、文字改革いわゆる繁体字を簡体字に変更した。発音も南方の発音及び方言を取り入れず北方方言を標準として、今日のように定着してきた。50年代から70年代まで度重なる政治運動によって、政治用語が次から次へと生活に取り入れ、使われてきた。

70年代末から対外的に大陸は改革開放政策を導入した。同時に兩岸「三通」⁽⁸⁾が実現することができ、兩岸の緊張関係が緩和されるようになった。そ

(8) 台湾海峡兩岸の平和的統一実現と実質的な経済建設のため、中国側から台湾に向けられた交流の呼びかけ。中台間の直接的な通商、通航、通郵を指す。1979年頃より呼びかけられ始めた。
(中略) 台湾では、87年戒嚴令が解除され、大陸との人的な交流が事実上始った。1997年に香港が返還されてから、台湾との三通の実現が避けられなくなる事実になった（前出『現代中国事典』、417頁。一部解釈は筆者による）。

れ以来、兩岸の文化、經濟交流が盛んとなり、人的な行き来に伴い、メディアによる互いの影響を無視することはできなくなった。インターネット上の交流、映画やドラマの傳播は兩岸の理解を深めるばかりでなく、相互の言葉を学び合う機会でもあった。長い閉鎖的な毛沢東時代から解放された大陸の人々にとっては、台湾から伝わってきた言葉が新鮮で、中国の若者たちに大きな刺激を与えた。その一部は流行語となり、新語となり、そのまま普通話として、定着するようになった。

グローバル化の進展が現実となっている現在、今後、中国語はいつそう国際化され、国と地域の差異を乗り越え、国際語として、活躍するだろう。

兩岸関係もますます緊密になることを期待したい。

参考文献

教科書

- 1 『楽華文』台湾・淡江大学中国語センター編集
一筆通國際股份有限公司（民国101年〈2013年〉6月）

辞書

- 1 李宇明 主編『全球華語詞典』商務印書館 2010年5月
- 2 鄭宇淨 総編集『中華繁簡辞典』（最新版）旺旺出版 2009年12月
- 3 宇野和夫 呉川 編『中日辞典』（新語・情報篇）小学館 2008年
- 4 天兒恵 など編『岩波 現代中国事典』岩波書店 1999年
- 5 賈采珠 編『北京話兒化詞典』語文出版社 1990年

論文

- 1 張夢昭「海峡兩岸漢語的差異及其原因探析」（『徐州師範大学学报』（哲学社会科学版）第36卷第4期 2010年7月）
- 2 呉礼権「還元海峡兩岸現代漢語詞彙差異の眞実面貌—略論海峡兩岸詞彙差異の對比研究問題」（『楚雄師範學院學報』第二十六卷第一期 2011年1月）

（本学教授）